



地域課題の解決に向けた取組

協働と連携による地域振興

冬にははっきりと確認できるヒダカ力文字

日高北部森林管理署

1 豊かな自然環境とアイヌの伝統的生活空間

当署は、日高地方西部に位置する沙流郡の全域（日高町及び平取町）を管轄し、10万1千haの国有林野を管理・経営しています。日高山脈の北部地域にあたる沙流川水系の上流域には、豊かな自然環境が残されており、令和6年6月に、日高山脈襟裳十勝国立公園が指定されました。沙流川流域には、古くからアイヌの人々が暮らし、今日では、アイヌの伝統的生活空間である「イオル」を再生する取組などが盛んに行われています。

2 国立公園指定と地域振興

管内では、国立公園の指定を機として地域を盛り立てる機運が高まっています。当署でも、国立公園や山岳関係の協議会等に参画することで、地域との連携により諸課題の解決に努めています。

地域振興を後押しすべく、今年度51回目を迎えた「ひだか樹魂まつり」等のイベントへも毎年度出展しているほか、管内の小中学校での森林教室等の開催、学校＋公共施設へのクリスマスツリーの提供等の取組も行っています。



日高小学校森林教室

3 コタンコロカムイを呼び戻せ

平取町内の国有林では、当署と平取町、(株)平取町アイヌ文化振興公社が協働・連携し、アイヌの人々が伝統的な狩猟や採取



アイヌ共用林野契約締結式

の場としてきた北海道古来の森林の再生などに取り組んでいます。これまでに、アイヌの文化伝承に必要なオヒョウやカツラなどの植栽試験地の設置などを行ってきました。

令和6年7月には、アイヌ共用林野として7,300haを設定し、伝統食材である山菜類や伝統的家屋であるチセの副資材となる小径木等を共用者が採取できるようになりました。豊かな森に生息するシマフクロウ(コタンコロカムイ)は、この活動のシンボルです。シマフクロウを呼び戻すため、巣箱の設置や餌となる魚類が遡上できる河川環境づくりにも取り組んでいます。



アベツ川の治山ダムに設置した魚道

今年度は、アベツ川の治山ダムに引込式石積み魚道を設置して、魚類の遡上を確認できました。

これからも当署では、地域との協働と連携により、国有林の組織と資源を活用した地域振興や住民福祉の向上に取り組んでまいります。